

会計別予算額の内訳

会計区分	予算額	前年度比較
一般会計	37,948,000 千円	△ 0.1
特別会計	国民健康保険事業	12,133,111 千円 11.3
	老人保健	11,226,583 千円 2.7
	介護保険事業	7,306,250 千円 1.1
	公共下水道事業	2,235,835 千円 29.4
	下水道事業	47,251 千円 1.2
	輝北簡易水道事業	70,500 千円 △ 55.9
	立小野簡易水道	2,028 千円 0.5
	小計	33,021,558 千円 6.6
合計	70,969,558 千円 2.9	

水道事業

収益的収支	収入	1,669,478 千円
	支出	1,464,819 千円
資本的収支	収入	325,343 千円
	支出	1,128,682 千円

● **老人保健**
 前期高齢者の医療費の増や、平成18年10月に施行された保険財政共同安定化事業拠出金の増が主な要因です。
 前年度比2.7%増の11.2億2,658万3千円となっております。これは、年齢の上昇及び医療の高度化に加え、平成19年10月以降新規受給者が発生するなど医療費が増えていることが主な要因です。

● **介護保険事業**
 前年度比11%増の73億625万円となっております。これは、高齢化の進展に伴う、要介護認定者やサ

● **水道事業**
 水道事業会計予算は、収入源と支出用途の性格によって、収益的収支と資本的収支に分かれます。収益的収支は水道事業の経営活動に、資本的収支は水道施設の整備事業に充てられます。

● **公共下水道事業**
 ビス利用者の増による介護給付費の増が主な要因です。前年度比29.4%増の22億3,583万5千円となっております。これは、平成18年度から実施している処理場増設工事の事業費が増加したことが主な要因です。

⑥ 地域とともに進める改革と、時代に適合した自治体づくり

時代に合致した持続可能な自立都市の形成に向けて、行財政改革の推進や、コミュニティ活動の充実などによる協働社会の構築を促進します。



本庁及び中央サービスコーナーに設置された自動交付機

- 職員研修経費 (857万2千円)
- 広聴広報推進事業 (359万4千円)
- 電子自治体推進事業 (818万7千円)
- 有線放送施設等整備事業 (3,200万円)
- 自動交付機事業 (1,096万円)

⑤ 豊かな自然と共生・調和したまちづくり

市民の財産である豊かな自然環境を次代に引きつぐため、河川の浄化や廃棄物対策の取組みなど、循環型社会の実現を進めます。



不法投棄パトロールを強化

- 環境対策推進事業 (188万9千円)
- 不法投棄防止対策事業 (584万7千円)
- ごみ減量・リサイクル事業 (6,359万6千円)
- 環境保全型農業総合推進事業 (740万9千円)
- 農地・水・環境保全向上対策事業 (750万1千円)

④ 人を育て心を育むまちづくり

これからの鹿屋市を担う子どもたちを育む教育環境の整備や生涯学習の推進による人材育成、文化やスポーツ振興を通じた交流を促進します。



7月にオープン予定のかのやグラウンド・ゴルフ場

- 小学校施設整備事業 (3,478万5千円)
- 芸術文化学習プラザ自主文化事業 (1,179万6千円)
- かのやグラウンド・ゴルフ場管理運営経費 (3,049万4千円)
- かのや英語大好き特区事業 (2,017万9千円)
- 不登校児童生徒支援事業 (353万円)